特集 感染症対策

日本の技術が命を守る

飛行機や船、長距離列車など移動手段の発達により、さまざまな人や物が世界中を巡る。便利な時代であるが、同様に細菌、ウイルス、寄生虫などが体に侵入して病気を起こす感染症がひとたび発生すると、国境を越えて人から人へ、動物から人へと感染が拡大する。感染症は世界規模で対応すべき課題であり、日本を含めた世界の多くの国は、世界保健機関（WHO）のもとで定めた国際保健規則に従って体制を整えてきた。

日本は、研究開発のみならず、感染症の発生の確認から対処までの制度作り、感染症対策への住民参加の促進など、これまでの経験を活かして開発途上国の感染症対策に協力。日本に住む私たちは、医師や保健師からの助言や予防接種をあたりまえのように享受しているが、開発途上国では、そうした取り組みも含めた保健システム強化の活動や、感染症対策のリーダーとなる人材の育成など、その国自体の能力強化を図る活動を展開している。

感染させない、広げない、そのための体制を整える――人びとの命を守るためにJICAができることは何か？

最前線で活動する日本人たちを追う。

●聴診器（p.04、05）：Amirul Syaidi/Shutterstock.com ●顕微鏡（p.05、10）：Konstantin Kolosov/Shutterstock.com ●シャーレ（p.05、19）：science photo/Shutterstock.com ●鉛筆（p.06）：Vitaly Zorkin/Shutterstock.com ●ノート、モバイルフォン（p.08）：ArthurStock /Shutterstock.com ●ビーカー（p.10）：Krisamorn /Shutterstock.com ●注射器（p.11）：funnyangel /Shutterstock.com ●DNA（p.14）：SARANS /Shutterstock.com ●ペンキローラー（p.17）：N_Sakarin/Shutterstock.com ●マスク（p.20）：egon999 /Shutterstock.com ●石鹸（p.21）：taffpixture/Shutterstock.com ●黒板（p.22）：Jacob_09 /Shutterstock.com